

編集後記

藍野学院紀要第23巻が完成しましたのでお届けいたします。気がつくといつのまにか年も明け、早くも麗らかな春の陽光がまぶしい季節になってしまいました。発行が大変遅れました為に、著者の先生方をはじめ、関係者の皆様には多大なるご迷惑をおかけ致しましたことを、この場をお借りしましてお詫び申し上げます。今号は論文五編と少し寂しい感も有りますが、内容的にはいずれも、執筆された先生方の見えない努力、こころの動きが偲ばれる優れた論文ばかりでありますので、是非ご一読いただければと思います。

ところで、「麗らかな春の」という時の、「うら」は本来「心」という字からきているという説があります。普段あまり使いませんが「心（うら）ぶれる」とか「心寂しい（うらさびしい）」のように「心」は「うら」とも読むのです。「うら」は裏に通じるわけで、心は裏側であって見えないものということなんでしょう。ちなみに、「占う」というのも「裏側にある見えないものを知る」ということから「心（うら）なう」なのだとか。

先日、『ダンゴムシに心はあるのか』（PHPサイエンス・ワールド新書、森山徹著）という本を読みました。著者はダンゴムシを相手に何度も実験を繰り返し、丁寧に観察しているうちに、心とは「外から見えない所で活動している部位」であり、そういう活動部位はダンゴムシも持っている、つまりダンゴムシにも心があるという結論にいたったといえます。その検証の方法がたいへん興味深いのですが、それはさておいて「心とは隠れた活動部位」であるというのは面白い考え方だと思います。まさに文字通り「裏側にある見えないもの」が心というわけです。

藍野病院の玄関ホールに大きな大理石のモニュメントがありますが、そこに刻まれているのが「心」という文字です。医療においては目に見えない部分を大切に、心を砕いて、遣って、配らなければならないという戒めでしょう。研究でも日々の隠れた精進が大切であると心得て、心に留めておきたいと思います。

最後になりましたが、著者のみなさまをはじめ、快く査読をお引き受けいただいた先生方、そして膨大な事務処理を黙々とこなされた事務局の方々に深く御礼申し上げます。

去る四月四日、元藍野大学学長で藍野紀要の編集長もされていた堺俊明先生がご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

（藍野紀要編集実施委員長：田中俊典）

藍野学院紀要 第23巻

平成22年4月1日

編集兼発行者 学校法人 藍野学院
〒567-0012
大阪府茨木市東太田4-5-4
電話 (072) 627-1711 (代)

印刷 明文舎印刷株式会社
〒601-8316
京都市南区吉祥院池ノ内町10
電話 (075) 681-2741